

# NPO法人 カプラー

## 【地域ビジネス連結器】

個別ビジネスから地域プロジェクトを抽出し、企業と地域・官と民をつなぐ

### 設立趣旨書

まだ人々が自給自足で生活していたころ、「地域」はビジネスの場だった。だが、生産技術に加え、情報・流通技術の進歩により、次のような状況が生まれた。

- ビジネスは地域の枠をはるかに越え、市民の仕事場は生活の場と分離してしまった。
- 一方地域では開発や投資が盛んに行われ、家賃や配当などの不労所得が増加した。
- 地域ならではの価値や特色も地域を越えて流通し、地域はどこも似たようなまちになりつつある。
- 高度成長期が終わりを告げ、企業の生存競争の激化に伴い就労者も淘汰されていく。

こうした状況は、地域に暮らす市民に対し次のような諸問題を生じさせている。

- 仕事に追われ、休むために帰る地域には、無関心になりがち。
- 資産や資金を持つ事業者は、自ら事業をせずとも収入が得られるので、事業意欲を失っていく。
- 独自の価値や特質がなければ、地域にこだわっても事業チャンスは見出せない。
- 企業を追われ、地域の事業者も地域そのものも頼りにならないのでは、他所に職を求めるしかない。

本来ビジネスは、地域に生まれ、育てられ、やがて地域を越えていく。シリコンバレーという地域が、世界を席卷するITビジネスの多くを生み出しているのはあまりにも有名だ。「地域の活力」とは、「地域がビジネスを生み出す活力」と言い換えてもよい。そうすれば先ほどの諸問題は次のように解決するはずだ。

- 市民が自分の地域のニーズや問題に関心を持ち、新たな地域の特色を生み出すきっかけにする。
- 不労所得の抱える「他力本願」というリスクに目覚め、ニーズや問題に取り組む起業意欲を持つ。
- 起業に際しては、地域の価値や特性を見直し、最大限に活用して「地域ブランド」に育てる。
- あらゆる垣根を越えて、地域ぐるみで起業を支援し奨励する風土が、地域の活力になる。

私たちは、「起業支援事業(せたがやかやつく)」で市民起業者とアドバイザーという関係で出会い、市民起業者の交流、起業意欲の啓発、地域と連携するビジネスの企画、創業に関する技術指導などに取り組んできた。その結果、「ビジネスに営利は必要だが、それ自身が目的でなく、手段であること」を確信するに至った。肝心なのは、多くの人から必要(需要)とされ、確かなメリットを提供(供給)できる事業を生み出すこと。それが理解され、求められるようになって初めてビジネスとなり、利潤が得られる。まずやるべきことは、より多くの人にこれを伝え、交流しながら「求められ、喜ばれる独自の事業」を考え、事業者と市民あるいは地域が一緒になってやってみることだ。

そこで私たちは、広く一般市民を対象とした次のような取り組みを通じて、「独自の事業を生み出す活力と創造力を併せ持つ地域社会の実現」を目指すことにした。

- 地域に寄与するビジネスをテーマにした市民同士の交流により、地域への関心を高める。
- 地域に寄与するビジネスに挑む起業を啓発・支援することにより、事業意欲を育む。
- 地域のニーズや課題を調査し、それに取組む事業を広報することにより、地域価値の創出を助ける。
- 市民の事業活動拠点を確保し、地域と連携して試行することにより、官民連携を実現する。

しかし現実には、私たちが連携したいと願う「地域」の行政や諸団体は、「営利事業」に対し拒否反応を示すだけでなく、住民や会員といった「構成員」から「公益の確保」を求められ、時として「地域全体の公益」に取り組めないでいる。そこで私たちは、地域とビジネスの「連結器(カプラー)」となるため、事業の仕組みと成果を公開し、自ら市民からの信頼を築いていく道を選択した。「ビジネスの究極の目的は公益の実現である」という確信を携えて、特定非営利活動法人を設立し、市民起業家たちが集まる活力ある組織運営を目指す。

なお、5月18日(金)に、せたがやかやつくにて設立総会を開催し、任意団体として活動を開始しながら、NPO法人の認証申請手続きを開始いたします。今後の活動につきましても、順次お知らせしてまいりますので、気軽にお問い合わせください。



平成19年5月10日

設立代表者 松村拓也

事務局 須賀裡津子

[www.nanoni.co.jp/coupler](http://www.nanoni.co.jp/coupler)